

中山

春日神社奉納歌舞伎



重要有形民俗文化財「中山の舞台」 昭和62年3月指定

日時 平成23年10月9日(日) 午後5時開幕

会場 小豆島町中山『春日神社』

主催 中山地区自治会・中山歌舞伎保存会

後援 小豆島町・小豆島町教育委員会・小豆島町文化協会

御 案 内

秋晴れの澄み切った好季節を迎え、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて例年、皆様から格別のご支援とご協力を賜っております中山春日神社奉納歌舞伎を、来る10月9日(日)午後5時から開演いたします。

特に今年は、全国でも珍しい「デコ芝居」を中山の舞台で初めて上演予定でございます。

皆様お誘い合わせの上、ご来場いただきまして、郷土に伝わる伝統芸能の名場面を、心ゆくまでごゆるりのご観覧下さいますようご案内申し上げます。

中山の夜風は思いのほか冷えますので、厚めの羽織り物を一枚ご用意の上お越し下さい。

平成23年9月吉日

中山地区自治会長 九野賢輔

中山歌舞伎保存会長 矢田徹

プログラム

第1幕 ^{さん ば そう} 三番叟 踊り……八木皇彦

第2幕 ^{あお とぞうしはな のにしき え} 青砥稿花紅彩画 ^{いな せ がわせい ぞろ} 稲瀬川勢揃いの場 (子供芸)



白浪五人男として有名なこの場面は第四幕の浜松屋の場の続きにあたります。

浜松屋での強盗をあきらめた五人男は鎌倉稲瀬川のほとりに落ち延びてきました。しかしそこには迷子の子供を捜す村人を装った捕り手達が網を張って待ちました。腕に自身のある五人男達はそれぞれに名台詞で名乗り上げた後、捕り手を立ち回りで軽くあしらい追っ払います。そして目立たぬようそれぞれの道を違えて落ちてゆくのでした。

【配 役】

日本駄右衛門……久保茂史(小6)	捕	手……中谷真衣(小5)
弁天小僧菊之助……圓山大輝(小5)		紙谷春妃(小5)
忠信利平……川野明莉(小6)		中畑あいみ(小4)
赤星十三郎……空林祐里(小5)		圓山千夏(小4)
南郷力丸……武田敬誠(小6)		中野大也(小2)

第3幕 ^{か な で ほんちゆうしん ぐら さん だん め} 仮名手本忠臣蔵三段目 ^{まつ ま にんじょう ば} 松の間刃傷の場

自分の家来が師直に賄賂を贈ったとは思ってもよらない若狭之助は、今日こそ師直を切ろうと覚悟を決めて松の廊下へとやってきます。ところが師直が平身低頭してあやまるので、怒りをこらえつつ若狭之助は奥へと入って行きます。

なんとか若狭之助の怒りはそらせたものの、屈辱をしいられた師直は怒りのやり場がありません。そこへ遅れて現れた塩冶判官に小言を言い始めます。おりしも顔世から師直への文が届けられますが、それは顔世が師直を袖にする意味をこめた古い歌でした。

師直はてっきり顔世が夫にうちあけたのだらうと腹をたて、塩冶判官をねちねちとい

びり始めます。師直の態度を初めはうけながしていた判官でしたが、師直の無礼に刀を抜こうとします。だが師直に殿中で刀を抜けば死罪の上、お家取り潰しだぞと脅され、一旦は思いとどまります。

しかし師直の悪口雑言にとうとうたまりかねた判官は、ついに刀で師直の額に切りつけますが、ちょうど近くにいた桃井の家来・加古川本蔵に抱きとめられ、師直に止めをさすことはできないのでした。

【配 役】 高武蔵守師直 …… 濱野良一 鷺坂伴内 …… 箭木和則
塩冶判官高定 …… 久保 政 加古川本蔵 …… 船波雄司
桃井若狭之助安近 …… 高松邦年

第4幕 かなでほんちゆうしんぐらななだんめ 仮名手本忠臣蔵七段目 ぎおんいちりきちゃや 祇園一力茶屋の場

身請けされたお軽は祇園町一力茶屋で働いています。一方、由良之助は仇討の本心を悟られないよう、わざと茶屋で芸者遊びにふけています。そこへ倅、力弥が顔世御前からの密書を届けに来ます。お軽は鏡越しに密書を覗き見してしまいます。それに気づいた由良之助は突然お軽を身請けしたと言い出します。そこへ平右衛門が妹お軽を尋ねてきました。お軽からその様子を聞き出した平右衛門は思案の末、由良之助の本心を知ることになります。仇討の仔細が書かれた密書を見てしまったお軽を由良之助に替わり兄平右衛門が手にかけてしようとしますが、それを見ていた由良之助は兄妹の心底を読み取り、平右衛門に仇討ちの連判を許します。

【配 役】 大星由良之助 …… 越田正則 斧九太夫 …… 亘 知之
寺岡平右衛門 …… 弓木和幸 鷺坂判内 …… 三木啓多
お 軽 …… 松江義人 駕籠昇き …… 船波雄司
大星力弥 …… 早倉知晶 ” …… 藪江 章

第5幕 しばい つぼさかれいげんき デコ芝居「壺坂靈験記」 さわいちすみか 沢市住家の場

大和国壺坂寺の近くに座頭の沢市と女房のお里が、貧しいながらも仲むつまじく暮らしていました。しかし夫婦になってより3年間お里がずっと七つ時（午前四時頃）より寢床を抜け出していることから、沢市は他に男がいるのではないかと疑い、ついにお里に問い詰めます。しかし実は沢市の盲目が治るようにと、壺坂の観音様へ毎晩お参りしていたのだとお里は打ち明け、二人一緒にお参りに行こうと誘います。悲観した沢市はお里の幸せを願い、この後はお里の足手まといにならないようにと、自信は谷底へ身を投げる覚悟で共に観音堂へ出かけるのでした。



【配 役】 お 里 …… 樋出 誠 沢 市 …… 久保 政

デコ芝居とは、頭(かしら)についた芯棒を竹で編んだ胴体を通して衣装を着せた等身大の「デコ」を操りながら演じる芝居です。黒衣姿の役者は、自分の帯とデコの帯の間に板をさして固定し、デコの着物の袖に手を通して、二人羽織よろしく身振り手振りを交えながら演じます。



【スタッフ】

振付指導 …… 矢田 徹

太 夫 …… 中村 巖・九野賢輔・井口平治

三味線 …… 佐伯富美子・武部優子・空林園子

衣裳方 …… 弓木富王・久保 政

舞台師 …… 紙谷讓治・岡田繁実・大西義則・中畑源司・

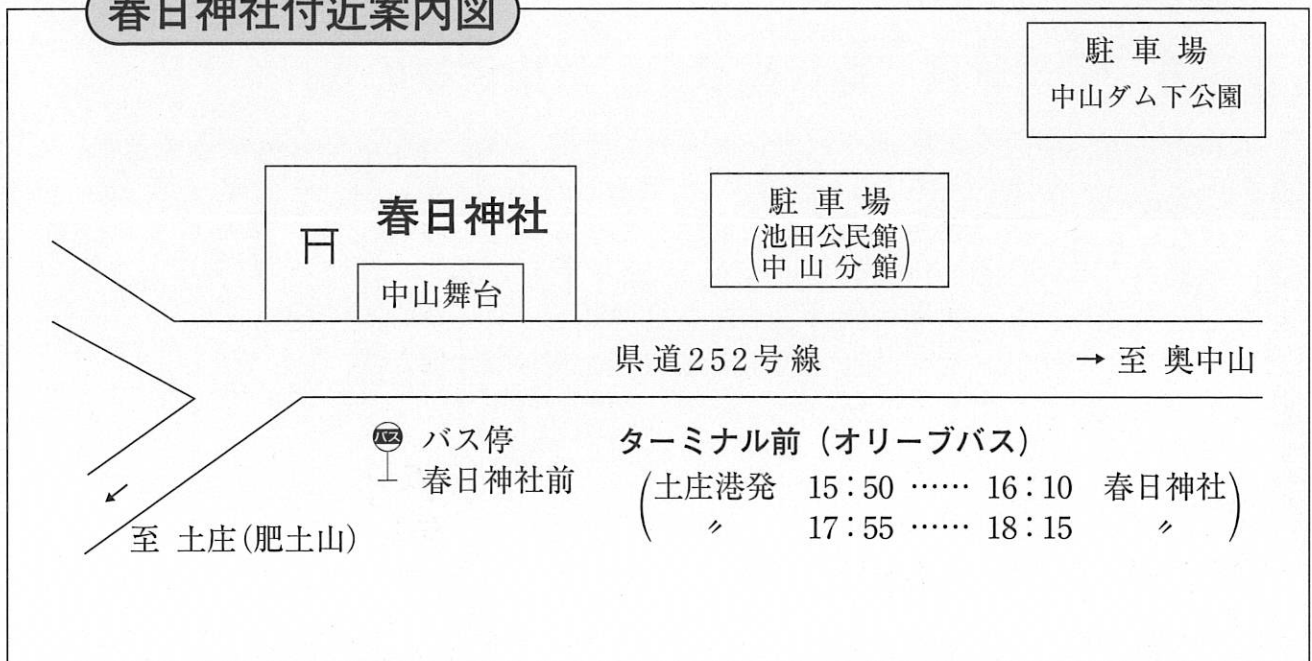
小笹康孝・伊谷利昭・谷久智己

着付け …… 矢田万千子・乾 ヨシ子・久保千鶴・越田ふくみ

総務係 …… 矢田常寿・武田久英



春日神社付近案内図



◎混雑が予想されますのでお車でのお越しはお控え下さい。

池田イメージセンターより無料送迎バスが出ます。(16:30から約30分毎)